



水稲 殺虫・殺菌剤/育苗箱施用剤

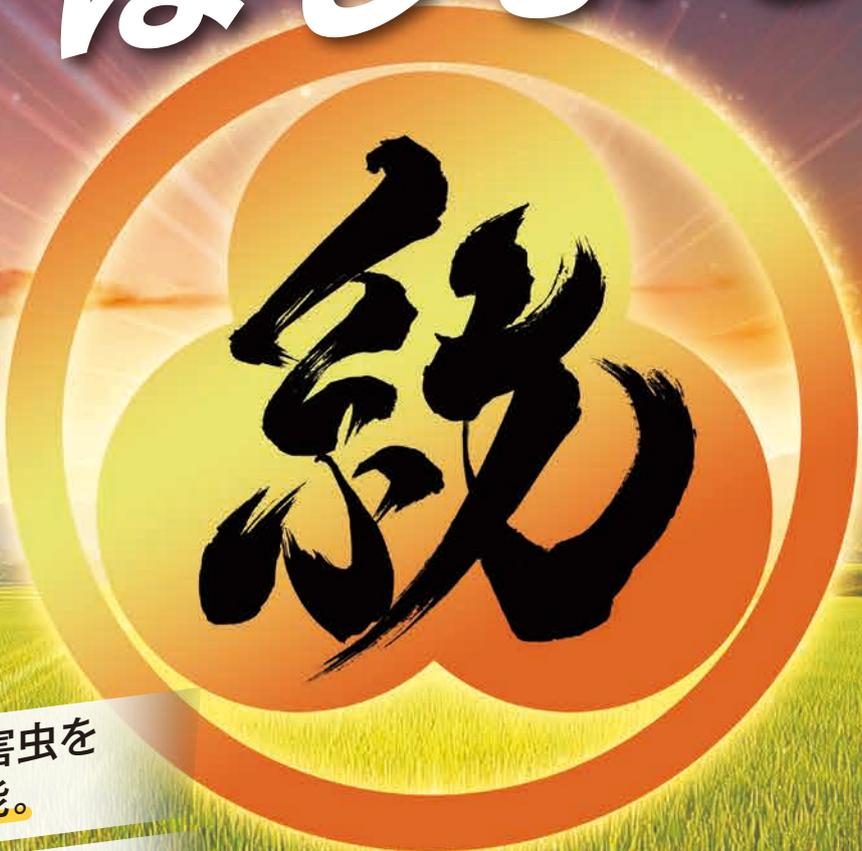


ブーン® リガード®パティート®

- いもち病
- 紋枯病
- 初期害虫
- チョウ目
- 高密度は種対応
- は種前から
- WCS※使用可

箱粒剤

新たな紋枯防除、 はじまる!



・水稲の主要病害虫を一度に防除可能。

・紋枯病・初期害虫に高い防除効果。

・高密度は種対応、WCS※使用可。



いもち病



紋枯病



イネミスゾウムシ



イネドロオウムシ



powered by
CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

©CYAZYPYR®、パティート®は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

®、ブーン®、リガード®はクミアイ化学工業(株)の登録商標

※WCS:稲発酵粗飼料

ブーン® リガード®パディート®箱粒剤

有効成分 シアントラニプロロール……………0.75%
ジクロベンチアゾクス……………2.0%
フルキサピロキサド……………1.5%
人畜毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

- 特長**
 - 新規成分により 紋枯病に優れた効果
 - 水稻安全性が高く、は種前～移植当日まで使用可能
 - 紋枯病の他、いもち病、初期害虫、チョウ目害虫などに高い効果

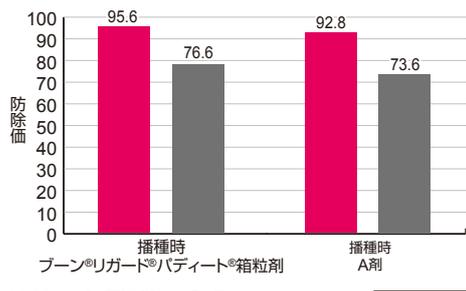
適用病害虫と使用方法

2025年12月現在

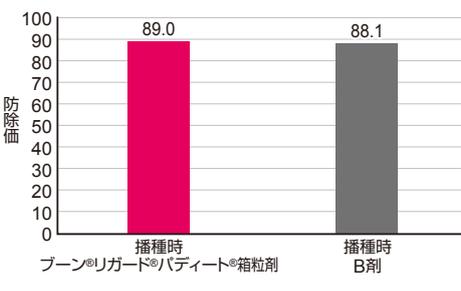
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数	フルキサピロキサドを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病、紋枯病 白葉枯病、もみ枯細菌病 イネミスゾウムシ、イネドロオウムシ ニカメイチュウ、イネツトムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50~100g)	は種時(覆土前)～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
	ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ、イナゴ類 イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50g	移植当日					
	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病 イネミスゾウムシ、ニカメイチュウ イネツトムシ、イネドロオウムシ	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50~100g)	は種前		育苗箱の床土に均一に混和する。			
	内類褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50g						

新農薬実用化試験成績

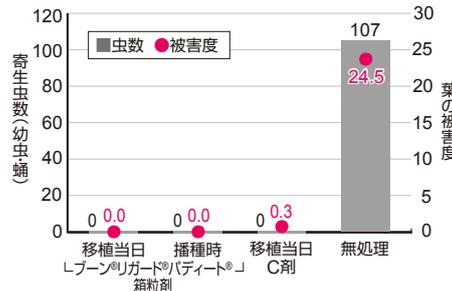
●いもち病に対する効果



●紋枯病に対する効果



●イネドロオウムシに対する効果



2022年 秋田県農業試験場
品 種：ナツミノリ
区制・面積：1区43.2㎡ 2連制
播 種：4月12日
移 植：5月17日
発生程度：葉(少(接種)) 穂(中)
調 査 日：葉いもち 7月25日 穂いもち 9月5日
調 査 方 法：葉いもち 各区100株×2地点について
上位3葉の病斑数を調査し、防除値を算出
穂いもち 各区30株×2地点について全穂を
発病程度別に調査し、被害度から防除値を算出

2023年 秋田県農業試験場
品 種：秋のきらめき
区制・面積：1区41.4㎡ 2連制
播 種：4月11日
移 植：5月16日
発生程度：中(接種)
調 査 日：9月14日
調 査 方 法：各区100株×2か所の発病株数、最上位病斑高、
草丈を調査し、発病株被害度、全体被害度から
防除値を算出

2022年 日本植物防疫協会 山梨試験場
品 種：コシヒカリ
区制・面積：1区108㎡ 連制なし
播 種：4月25日
移 植：5月19日
発生程度：中
調 査 日：6月30日(移植42日後)
調 査 方 法：各区50株×4か所の寄生虫数、
葉の被害度を調査

【使用上の注意事項】

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とすしてください。
- 苗を田植機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とす後軽く灌水してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾初として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、葉害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 高温や乾燥が続く場合、葉身や葉鞘に褐変を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後に田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- 小さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 保管…密封し、直射日光をさけ、涼涼・乾燥した場所に保管してください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。

本資料は2025年12月現在の
知見に基づいて制作しております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。